

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	海津市	学校名	海津市立大江小学校			
校長名	古橋 徳昭	対象学年	全校	人数	70	人
活動名	大江ふるさと学習	時間数	60	時間	継続年数	7～11年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [木曾三川・ホタル] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [平田靱負・薩摩義士] 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [狂言・大正琴] 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [稲作体験] 5 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [福祉交流] 6 その他（ ） [ ]					
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさとについて学ぶ学習を「総合的な学習の時間」に位置づけ、発達段階に配慮しながら指導計画を見直したこと。</li> <li>年度当初に会を開き、地域ボランティアの方とふるさと学習のねらいや段取りを共有し、積極的かつ円滑な支援体制が得られるようにしていること。</li> </ul>					
<p><b>1 ねらい</b></p> <p>ふるさとである大江地域を愛し、人々・自然・社会に進んで関わり、そのよさを自分の言葉で語ったり、地域をよりよくしようと働きかけたりできる子の育成を図る。</p> <p><b>2 活動の概要</b></p> <p>大江小学校区の地域は、平田靱負や薩摩義士の功績を抜きにしては語れない。先人たちの努力があってこそ、自然の豊かな恩恵を受けている我が地域があるのであり、今後もふるさと大江を大切にしていかなければならない。こうした学習を系統的に実施しているのが、総合的な学習の時間を使った「大江ふるさと学習」である。3年生では、地域の農業に目を向け、この地ならではの農業の特色や携わる人々の努力や苦労について学習している。4年生では、宝暦治水、長良川の下流である地域としての暮らしや環境を調べたり、上流地域の学校との交流活動をしたりする学習を行っている。5年生では、地域の福祉施設に出向いて交流したり、地域の高齢者の活動に参加したりする学習をしている。6年生では、環境保全をモチーフとした創作狂言「失せうろこ」を各地で上演するなどして発信活動を行っている。また、地域ボランティアさんを講師に大正琴や書を学ぶ活動を通して、地域の人とふれあい、人を大切にする心と態度を養う活動も実施している。</p> <p><b>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</b></p> <p>大江ふるさと学習に関連して地域の方と関わる場はたくさんある。4月に行われる治水大祭に向けて、地域の方に全校児童が治水に関する大型紙芝居を読み聞かせていただく。また、薩摩義士踊りを教えていただく。大祭当日にかつぐ「環境みこし」は、地域の方とともに、低・中・高学年でそれぞれ作る。大祭当日は、6年生が創作狂言「失せうろこ」を一般参加の方々を前にして発表している。環境を大切にしたいという願いを込めて全校児童が参加している。</p> <p>8月と11月には名古屋城や海津市の歴史民俗資料館の能舞台で6年生が狂言「失せうろこ」を上演し、大江地区内外の方々にも披露している。</p> <p>この他にも、地域ボランティアの方々から支援を受けながら、農作物の栽培や収穫体験（焼きいも・三世代交流会〔餅つき会〕）を全校で行ったり、3年生が大豆の豆打ちやきなこ豆腐作り、4年生がサトウキビを使った黒糖づくりを体験したりして、地域の方々とともに食の恵みを享受している。</p> <p><b>4 活動による児童生徒の変容</b></p> <p>学期末に行う児童の自己評価では、「ふるさと学習を通して、大江の自然や歴史を学び、それらを大切にしようとして活動できましたか」の設問に対して、全ての児童が「よくできている」又は「だいたいでできている」と回答した。ふるさと大江に関する学びが、郷土に対する関心を高め、誇りと愛着を育てていると考えられる。また、調べたりまとめたりしたことを相手に分かりやすく伝えようと表現方法を工夫する姿が、日常の集会活動や授業の中でも表れてきている。さらに、それぞれの会や活動の運営を自分たちで進めていこうとする主体者意識も育ちつつある。</p>						